平成25年12月18日

報 告 書

那須塩原市議会議長 中村 芳隆 様

那須塩原市議会 第2班班長 高久 好一
記録者 藤村 由美子
齊藤 誠之
若松 東征
人見 菊一

下記のとおり報告会を開催いたしましたので、報告いたします。

記

1. 日 時 平成25年11月16日(土) 午後6時30分～8時30分

2. 会 場 狩野公民館

3. 担当議員と役割

【担当議員】

高久 好一 (班長)
玉野 宏 (副班長)
櫻田 貴久 (司会者)
眞壁 俊郎 (定例議会審議報告)
吉成 伸一 (議会活性化検討特別委員会活動報告)
玉野 宏 (放射能対策検討特別委員会活動報告)
藤村 由美子 (記録)
齊藤 誠之 (記録)
若松 東征 (記録)
人見 菊一 (記録)

【応援議員】

星 宏子、鈴木 伸彦、君島 一郎、金子 哲也

4. 参加者 市民14名(男性13名、女性1名)

参加議員・職員など 25名

5. 主な意見・要望

質疑・応答

< 報告会について >

Q：配付された資料だけでは説明についていけない。

A：要望として伺い、次回の報告会では注意したい。

< 議会運営・議案審議について >

Q：議案審査の流れについて、4つの常任委員会と本会議の質疑というのが大事な皆さんの活躍する場だと思うが、委員会質疑と本会議の質疑の時間はどのぐらいか。

A：委員会の場合は質疑の時間というのは決まっていない、また本会議については、質疑の時間は15分で行っている。

Q：委員会の方が時間は多いのか。

A：時間的には委員会の方が多。

Q：傍聴は出来るか。

A：できる。

Q：事前通告して質問をするとなるとメ切があると思うが、その間に何か突発的な事故とか行政の影響などが発生した場合、それに対して執行部に質問できるような仕組みはあるのか。(緊急に出す場合)

A：通告制を取っているのは質疑に対してスムーズに明確に答弁がなされるため。突発的なものに関しては、動議という権限をもっていて、動議に対して賛同者がいれば質疑も可能となる。

Q：議会だより9月号にある第7号の陳情書の不採択の理由を教えてください。

A：バイオマスプラントの許認可は県であり、被害軽減に向けての要望は賛同できるが、対策自体は市に権限が無いため不採択にした。

Q：陳情の件数はどのくらいあるか。

A：9月は5件であるが、その他に郵送で送られてくる場合がある。それは議長預かりとなり実際には審査はされない。審査される陳情はあくまで議会に持参されたものです。

Q：陳情の仕方について申請の方法はあるのか。

A：議会だよりに、請願、陳情の提出の仕方が掲載されている。

<放射能対策について>

Q：放射能対策委員会はどのような話し合いがされ、それは全体の議員のものにしているのか。

A：問題意識は全議員が共通して持つということを前提としている。

Q：9月20日の放射能関係団体との話し合いの内容は。

A：特に子どもたちの健康被害について考えている方々であった。除染をしたのにもかかわらず、期待していたよりは数値が落ちていない。とにかく数値が下がるようさらに除染を願いたいという内容である。

Q：市民に参加を呼び掛けたり内容を伝達したりしてほしい。

A：放射能対策検討特別委員会から一緒にやっという声を求めていくことが前提である。

Q：市民や市が受けた大きな犠牲についてどんな話がされてきたか。

A：風評被害など実情として出てきているので粘り強くやっていく。

Q：東電への賠償請求について話し合われているのか。

A：賠償に関しては本市も検討中である。放射能対策検討特別委員会で今後もきっちりと話をしていく。

意見交換

<放射能>

Q：放射能対策検討特別委員会の報告が9月25日付時点でのものであるが、現在までの市議会の取り組みを伺う。

A：これまで報告したものを継続的に話し合っていくが、具体的には福島を除染現場を現地視察しようと考えている。

Q：市民全員が甲状腺のがん検査を受けるシステムをつくるとかできないか。

A：放射能対策検討特別委員会で検討していく。

Q：除染は点で行っても意味が無い、面でやることは出来ないのか。

A：まさに地域の問題。高線量メニューの実施を県、国へ要望していく。

Q：脱原発、原発ゼロを市議会、那須塩原市で宣言したらどうか。

A：要望として受け止めたい。

Q：放射能対策検討特別委員会が本会議で堂々と意見を述べ、議員の皆さんと共有しながら前進してもらいたい。

A：皆さんの声をしっかり受け止めたい。

Q：関谷地区の除染について、小学校の校庭の他にも行ってほしい。通学路や公園の数値も高いのでお願いしたい。

A：放射能の数値が高い所のデータを頂きましたので参考にして取り組んでいきたい。

<自治会>

Q：小さな自治会では、敬老会の開催や自主防災組織の結成にも大変苦労している。小さいところ同士が集まるとか、良いアイデアはないか。

A：自治会によっては小さい方がよいと感じて、大きくまとめるのをやめているところもある。大きすぎると逆に集まりが悪くなり、小さい方が会場も近く、顔も見えるので集まりが良いということも現実にある。

Q：テレビが映らないので組合をつくり、年間の出費をどうにか解決できないか。

A：要望として受け止めます。

<道路、その他>

Q：道路の雑草について

A：要望として受け止めたい。

Q：市の出先の公民館というものをもっともっと重要視して活用して行ったら、本当の市民の声が、より吸い上げられるのではないかと思う。

A：できるだけ公民館を活用してしっかりと皆さんの声を受け止める機会をつくりたい。

Q：道路の計画については議会に出てこないのか。

A：合併時に計画したものは、計画に沿って進められている。

Q：(槻沢地区) 上水道、合併浄化槽、道路の件について

A：要望として受け止めたい。

Q：各地区の公園について例えば高柳運動公園など人が集まる場所の除染を早くしてもらいたい。

A：要望として受け止めたい。

6. 報告会の運営について

- 来場者の資料をめくる時間が必要であり、市民の資料のページに合わせるとわかりやすい。
- 報告を短く、意見交換を長く時間配分した方がよい。
- 1 報告ごとに質問を受けてはどうか。
- 昨年も出た意見だが、説明が長すぎた。
- 報告会を柔らかくする。
- 開催場所に合わせて報告を用意し、要望も事前に調べる。
- 議員側の準備、地域向けにする。
- 開催場所にある問題を提起してはどうか。
- 議員、人数、周知方法、呼び込み等の検討が必要。
- ポスターにもっと内容を入れられないか。
- 参加者の1 割が女性、市民の意見を吸い上げやすくする工夫が必要。
- 多くの市民に来て欲しい、議会だよりで知っている人が参加している。
- 市民の意見を多くして投げかける部分があれば、市民が応えてくれやすいと思う。
- 多くの市民に参加してもらうことが大事、回を重ねることで解決できる問題が多くある。
- 概ね、両方の報告会場とも30人位になった。
- 開催場所6カ所、時間を2通りとしたが、第2班は問題なかった。
- アンケートでは、参加した市民の69%が議会報告会を評価している。
- 意見に「ありがとうございます」で終わらせないで、正確に誠実に答える。
- 決め台詞「持ち帰り検討します」をもっとうまく使った方がよい。